

# 大里農林 振興センターだより

September.2024 No.18

## 寄居町用土円筒分水工

円良田湖から地下トンネルを通して送られた農業用水を深谷市・美里町・寄居町の3方向に一定の割合で分配しています。建設から60年以上経った現在でも現役で稼働し、田畑を潤しています。



# 安心・安全な農場の証明『S-GAP』

GAPとは、肥料や農薬の使用、作業場の安全確保、農産物の衛生管理など、農業生産の各工程をチェックリストに従って改善する取組です。GAPを取り組むことで、効率的で安定した農業経営、農産物の品質向上、農場のイメージアップ、販売先の信頼確保など様々なメリットにつながります。

## 埼玉独自の基準『S-GAP』

埼玉県では、分かりやすく取り組みやすい内容に整理した独自の基準『S-GAP』を定め、具体的な改善提案や助言などの支援を行っています。  
また、県の評価員が評価を行い、全評価項目を満たした農場を『S-GAP実践農場』として認証しています。(※費用は一切かかりません)



## S-GAPスタート宣言

令和6年度からは、S-GAPの各項目のうち、特に安全に関する基礎的な8項目について、自己点検チェックシートで確認する『S-GAPスタート宣言』も開始しました。  
これからGAPに取り組む方は、ぜひご活用ください。

### S-GAPスタート宣言

～安全・安心、持続可能な農業経営に取り組みます～



### S-GAP自己点検シート

取組の第一歩! まずは農場の自己点検をしてみましょう!

- ① 農薬、肥料、農具等の農薬用資材は、適切に保管している
- ② 農産物は種類別に分別し、飛散・流出しないよう保管している
- ③ 危険な場所には注意を促す表示をしている
- ④ 農作業安全をよく考慮した服装で作業している
- ⑤ 農薬用機械・器具の使用にあたっては、説明書をよく読み、点検・整備の上、適切に使用している
- ⑥ 危険を伴う作業は、基本的に熟練者や資格を有する者が行うようしている
- ⑦ 農薬を使う時は、容器のラベルに書かれている使用基準を守っている
- ⑧ 農薬を散布する時は、周辺のほ場に農薬が飛び散らないよう、十分に注意している

GAPに興味・関心のある方は、ぜひ大里農林振興センターまでご連絡ください。

## 令和7年4月以降の農地の貸し借りは農地中間管理事業

一般的に利用されている農地の貸し借りの主な手続きには、

- ① 農地所有者(貸主)と耕作者(借主)の相対の契約 『利用権設定等促進事業』
- ② 貸主と借主の間に農地中間管理機構(埼玉県農林公社)が入る契約 『農地中間管理事業』  
がありましたが、農業経営基盤強化促進法の改正により 『①利用権設定等促進事業』は令和7年3月で廃止となり、『②農地中間管理事業』に一本化されます。

※上記①②以外に農地法第3条に基づく農業委員会への許可申請の手続きがあります。

### 【農地中間管理事業のイメージ】



### 農地所有者(貸し手)のメリット

- 公的機関が仲介するので、安心して農地を貸すことができる。
- 賃料は埼玉県農林公社から確実に入る。
- 契約期間が満了した後は、離作料を払うことなく、農地は確実に戻ってくる。
- 税制の優遇措置が適用される。

### 耕作者(借り手)のメリット

- 経営規模の拡大や農地の集約化がしやすくなり、労力・コスト削減。
- 長く継続して借りることができる。
- 貸し手への賃料の支払いは埼玉県農林公社が行うので、煩雑な事務がなくなる。

病害虫の侵入を阻止！ねぎの安全な成長をサポート

## ねぎの病害虫対策

ねぎの病害虫対策で大切なことは、適切な栽培管理と異常な症状を早く発見し、適切な対策を迅速に取ることです。今回は以下の病害虫の注意点について説明します。

### ネ ギネクロバネキノコバエ

#### ▶ 時期

9月以降に気温が低下すると幼虫が増加し、葉鞘や茎盤への食害が増えてきます。

#### ▶ 特徴

食害を受けていても、寄生頭数が少ない場合は若干生育が悪い程度で見分けが付きにくいですが、被害が激しくなると外葉が枯れ、さらにひどくなると坪枯れを引き起こします。

#### ▶ 対策

本虫はにんじん、にらにも寄生し、前作で発生が多かったほ場や残さが放置されたほ場などは発生源となりやすいため注意が必要です。世代更新はおよそ1か月サイクルのため、おおむね3週間間隔で薬剤散布を行いましょう。



ネギネクロバネキノコバエ幼虫

### 黒 腐菌核病

#### ▶ 時期

低温を好むため（発病適温：10～20℃）秋から翌春にかけて被害が拡大します。

#### ▶ 特徴

本病に感染すると外葉の黄化が見られ、葉鞘部が黒変、腐敗し、黒変部の表面にはゴマ粒大の黒色の菌核が形成されます。この菌核は土中に長年残るため、次作の伝染源になります。

#### ▶ 対策

土寄せ作業時などに薬剤を入れる、またはかん注剤などを施用することで、根元にしっかり有効成分を届かせることが重要です。



黒腐菌核病により腐敗したねぎ

## 水田へのねぎの作付けについて

管内のねぎ産地では、連作による難防除病害を軽減する目的で、水田を利用した輪作体系を導入し、安定生産を図っている事例があります。主な作型は秋冬どりで、労力を要する定植（4～5月）と収穫・調製（12月～翌年2月）が主穀作の農繁期（6～7月・10～11月）と重ならないことがポイントです。

### 排 水対策の実施

ほ場の滞水は根張りを悪くするだけでなく、病害虫が発生しやすくなるため避けるべきリスクです。

溝堀機等によりほ場周縁部（区画の大きいほ場では内部も）に明きよを掘りましょう。明きよ末端は排水口に接続し、大雨時の滞水を速やかに落水できるようにしましょう。

### 除 草作業の省力化

ねぎのほ場では、定植や収穫・調製の他に、除草作業等ありますが、主穀作の農繁期に労力をかけないために、土壌処理剤と茎葉処理剤を体系的に組み合わせ、除草作業の省力化を図りましょう。



明きよを掘った水田ねぎほ場

### メリット

- ・水田の一部で冬季を含めた野菜生産を行うことは、年間を通じた作付けによる収益の向上が期待される。
- ・前作のねぎ残さや土中に残る病害虫、および畑地雑草の発芽抑制対策として、畑作と水田を交互に行う輪作体系は、ねぎ作のリスクを低減させるのに効果的である。

